

# ANUANU

[第4回特別展示]

## CHIRI MASHIHO 知里真志保

～アイヌ語研究にかけた熱意～

登別市郷土資料館蔵

探究展示 テンパテンパ⑥／博物館Pickup!／見て見て! 館内サイン⑧

調査研究最前線②／展示事業報告

ウポポイってこんなとこ⑤／国立アイヌ民族博物館からのお知らせ







t.1  
エヌ  
チエプ  
アヌ  
ヒ  
サケの料理

サケはとても重要な食料です。身はもちろん、内臓や骨まで調理して食べます。いろいろな料理があり、捨てるところはありません。このユニットでは、サケのどの部位が、どんな料理になるのか、模型とカードからることができます。サケが産卵のために川にのぼってくる秋になると、河口付近ではサケをむかえる儀式を行い、1年分のサケをとります。とったサケは焼いたりオハウ(汁物)にしたりして食べます。氷頭などをたたいて刻んでつくるチタタフのように、新鮮なサケを楽しむ料理もあります。残りは内臓をとて干し、サッチェック(干した魚)にして保存します。皮はくつや衣服などの生活用具をつくるなど、とったサケは資源として全て使い切ります。



## イケレウシ テンパテンパ<sup>⑥</sup> —探究展示 テンパテンパ—



t.2  
チエプケレ  
魚のくつ

サケの皮がくつになります。チエブケレをつくるには、大きくて皮も厚い産卵後のサケが最適で、一冬越せる丈夫なくつがつくれたと言われます。つくるときは、背びれがくつの底になるようにします。背びれが滑り止めの役目になります。このくつを使うときは、中に草を入れて保温と汗取りにします。両足分のくつをつくるためには、サケ3~4匹分の皮が必要です。このユニットでは、サケ皮のパーツを組み合わせて、くつをつくることができます。また、実物のくつに触れながら、その履き心地を想像してみてください。  
(エデュケーター シン・ウォンジ)



魚のくつ 完成形

## ホリデーイベント「テンパテンパしてみよう！」

ホリデーイベントは、博物館の教育普及活動として主に週末に開催しているイベントです。「テンパテンパしてみよう！」では基本展示室にある「探究展示 テンパテンパ」という展示を体験いただけます。

探究展示は、18の体験ユニットを備えた展示コーナーです。各ユニットについては、本ページ上部の連載でいくつか紹介してきました。サケの料理や皮の利用法を見たり、ミニ

チュアサイズの着物の素材をさわって感じてみたり、大人も子どももユニットを通していろいろなアイヌ文化のトピックに触ることができます。

現在、探究展示は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、さわる運用を停止しており、直接体験いただくことができません。

そこで、ユニットを体験いただく機会として本イベントを開催しています。イベントは一組

ずつ入れ替え制で実施し、会場に設置された一部のユニットを選んで体験いただきます。体験とあわせて、エデュケーターと対話をを行うため、展示資料やアイヌ文化への理解をより深めていただけると思います。

本イベントは、今後も開催予定です。開催する際には、博物館公式ウェブサイトで情報を公開します。ご興味のあるかたはぜひご参加ください。  
(エデュケーター 今野 彩)



\* 探究展示は、基本展示室で常時ご覧いただけます。気になるユニットがあったら、近くにいるスタッフまでお声がけください。

ホリデーイベント名	実施日(2021年12月~2022年4月)
受け継ぐ、うたおどり	2021.12/4
テンパテンパしてみよう!	2021.12/18, 2022.3/26
ユ・オルシベ～温泉のお話～	2022.1/15
ユニバーサルミュージアム&パーク オープニングイベント「音楽と民具にふれてみよう！」	2022.1/29
ユニバーサルミュージアム&パーク「民具をつかってみよう！」	2022.2/6, 2/19
ユニバーサルミュージアム&パーク「音楽を体験してみよう！」	2022.2/11, 2/13, 2/23
ワークショップ「さわる、みる、きく、そしてはなす」	2022.2/27
伝承から自然災害を記憶する－津波	2022.3/5
イコロ トランプをまわろう！ 展示を見る前のアイヌ博ガイド	2022.3/19
きいてみよう！「白老の衣服文化」	2022.4/16, 4/30

## 博物館Pickup!<sup>⑧</sup>

国立アイヌ民族博物館の収蔵資料をピックアップして紹介します。

トンコリはアイヌ民族に伝わる弦楽器で、主に樺太や北海道北部のアイヌ民族の間に伝えられてきました。今回紹介するのは、トンコリ奏者であり、アーティストのOKIさんによる作品です。OKIさんが自身で製作し、数々のステージをともに走ってきたトンコリです。大きな特徴として、音量の小さなトンコリに電気增幅するマイクを設置し、大音量のドラムセットに負けない音量を確保していることです。これによって、大規模な屋内ステージや、巨大野外ステージも対応可能になっています。また、伝統的なトンコリは5弦であることが多いですが、弦の並び順序が異なる伝統的なトンコリ奏者の演奏を一本のトンコリで演奏できるように、OKIさんのトンコリは6弦でできています。伝統的なアイヌ文化をベースにしつつも、現代のシーンにフィットした形を模索し、新たなサウンドを作り出してきたあり方の一端を、こうしたところからもうかがい知ることができます。

アイヌ文化であるかそうでないかという線引きをせず、「人のくらしや文化的な営みはもっと流動的だったはず」だという信念と美意識が、制作する音楽やトンコリには表現されています。そうした独自の路線を築き、国内の音楽フェスやライブツアーのみではなく、国外で開催されているWOMADやレインフォレスト・ワールド・ミュージックフェスティバルなどの音楽フェスにも参加しています。

さらに、OKIさんは音楽レーベル「CHIHKAR STUDIO」を運営するとともに、MAREREW STUDIOを運営するなど、MAREREW



やOKI DUB AINU BANDのプロデューサーとしても活動しています。また、スノーボードのグラフィックをデザインするなど、音楽にとどまらずさまざまなシーンでも活動しています。

OKIさんと相談しながら作り上げた基本展示室の展示では、ステージをイメージ

i アスルコロ ウシ  
総合案内  
General Information



## 見て見て！館内サイン<sup>⑧</sup> アスルコロ ウシ

総合案内、インフォメーション

アスルは「噂、評判、知らせ」という意味の単語で、「情報」と訳されることもあります。コロは「持っている」、ウシは「(いつも～する)ところ」という意味です。

アイヌ語では、何かを知らせに来ることを「アスル コロ ウエク(知らせを持ってくる)」といいます。アスルコロ ウシは、このような昔ながらの表現を参考に考えた館内サインの一つです。施設のご案内や来館者からのお問い合わせにおこたえる総合案内(インフォメーション)ということで、アイヌ語では「お知らせ(情報)を持っているところ」という表現になっています。

(学芸員 矢崎春菜)



# 調査研究最前線

## Report 1

### 博物館体験を深めるための 教育コンテンツ開発の研究

当館の教育グループは、当館の研究・学芸業務の2つの系統である「アイヌの歴史・文化」と「博物館機能の強化」のうち、後者に属する専門グループです。主に博物館学、博物館教育学などの分野を扱い、基本展示室では「探究展示 テンパテンバ」を開発から担当してきました。当館の研究計画のひとつとして「多民族共生の実現のための博物館教育の研究」という大テーマが設定されており、そのもとにいくつかの研究を開始しています。研究課題としては、博物館の来館者調査、展示物の展示評価、博物館教育のためのツール開発、ライブラリと博物館の連携、教育プログラムやオンラインコンテンツの事例調査などを行っています。

ここでは、2020年度に行った「国立アイヌ民族博物館基本展示室における展示体験深化のための、ワークシート開発機能の研究」をご紹介します。皆さんも博物館の館内やウェブサイトで、ワークシートを手に取る機会があるかと思います。シンプルな見た目に反して、ワークシートを作ることは実は難しいものです。ねらい、使い方、使う場所、一緒に観る展示は何か、体験の内容はなにか、などのたくさんの要素があります。また、当館はアイヌの歴史と文化、そしてアイヌ民

族の現在とこれから、を考えてもらう博物館なので、その内容を誤解がないように伝えいくよう、十分な留意が必要となります。



本研究は、1)アイヌ文化に親しみを持つこと、2)アイヌ文化についてなんらかの理解を得て持ち帰ること、3)自己文化への自覚、4)多文化共生への意識を持つこと、などの博物館体験の支援のあり方を見つけることを目的としています。その第一歩として、当館の基本展示を活用したワークシートを開発することを研究テーマとしました。ワークシートは来館者・体験者の博物館体験を作り出すもの、という視点のもとに、外部の専門家とのワーク形式で、ツール制作だけでなく博物館の教育コンテンツ開発のための視点を習得し、教育普及活動全般の開発スキルの向上を意図した研究です。



研究内容としては、半年間のグループワークとして4チームでの議論を行いながらワークシートの開発を行いました。しかしながら、「基本展示室の展示テーマに焦点を合わせたもの」、「基本展示室全体をまわり、館のミッションにふれるもの」、「オンラインで自宅で印刷して体験するもの」などさまざまな形態の5種のプロトタイプを開発しました。

専門家(東京大学 佐藤優香氏)からは、教育コンテンツ開発の視点として、「活動、資料との出会いをデザインすること」、「コンセプトと活動の両者を検証すること」、「情報の取捨選択」などの指摘を受け、全体で議論をしながら、チームで相互に試作物を展示室で体験し、改善点をどのように制作物に落とし込むかの検討作業を続けました。研究の過程について学会発表も行なっています。\*

開発したワークシートのプロトタイプは、2021年8月の「こども震が観見学デー」にてオンラインで先行稼働したものもあります。来館されたかたやオンラインのかたがたに体験いただけよう、研究成果を今後の教育普及活動に活かしていきたいと思います。

(研究主査 笹木一義)

\*佐藤優香、笹木一義、奥山英登、押野朱美、カサド・パルド・ケラル、今野彩、シンウォンジ、永石理恵、長谷仁美、両角佑子、「博物館におけるワークシート開発を通じた教育スタッフの育成—国立アイヌ民族博物館の探究展示を活用した取り組み—、全日本博物館学会第47回研究大会(ハイブリッド開催)、2021年

## Report 2

### 気流が見えると 環境も見えてくる!?

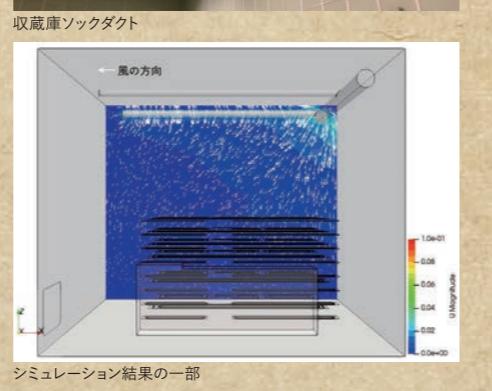
「withコロナ」ともいわれる時代になり、室内空気の清浄化に注目が集まるようになりました。博物館でも館内の二酸化炭素濃度を指針とした換気を実施し、来館者に安全に過ごしていただけるよう努めています。一方で、博物館では収蔵する資料の状態を良好に保つために、保管場所である収蔵庫内の空気の清浄化にも取り組んでいます。

当館の収蔵庫は天井が7mと大変高く、天井にはソックダクトという空調機を設置し、資料の保管に適した空気の流れ、温

度湿度を維持しています。しかし、空気や温度、湿度は目で見ることができません。そこで、私たちはシミュレーションを用いて目に見えない空気の流れや温度を図示化し、さらに想定されるさまざまな条件の収蔵庫環境を再現する研究を行っています。

シミュレーションの結果、天井に設置されたソックダクトから床部まで、きれいな空気流れができることがわかりました。収蔵庫で空気流れや温度、湿度に偏りがあると、資料の劣化、カビや虫の発生を促す可能性があり、資料に危険が及びます。そのため、収蔵庫の環境を把握することは資料を保存していく上でとても大切です。今後はこのシミュレーションを利用して、保存に適した環境とするためにはどうしたらよいかを検討していく予定です。

(アソシエイトフェロー 古田嶋智子)



# 展示事業報告

## News 2

### 第2回テーマ展示 「地域からみたアイヌ文化展 白老の衣服文化」

【会期】  
2022年3月15日(火)～5月15日(日)  
【会場】  
特別展示室



直線と面が織りなす複雑な模様で表現される衣服、アイヌ語でルウンペ。本展覧会では、「家系で受け継がれてきた衣服」から「地域で受け継ぐ衣服」、そして「多様化していく衣服」への変遷について、白老の独自な衣服文化として広く知られているルウンペに焦点を当てた展示を行いました。白老の衣服が一堂に会して展示されるのは、本展覧会がはじめてとなります。白老の衣服文化に影響を与えた時代の動向を示すことで、衣服の地域性が形成されていく過程が理解できるような展示構成を心掛けました。なお、本テーマ展示は、アイヌ文化の独自性や多様性を地域単位で紹介していく、当館シリーズ展覧会「地域からみたアイヌ文化展」の第1回目として開催しました。



また、関連事業として第4回エントランスロビー展「シラウオイウン クル テカカラベ -白老で活躍するアイヌ工芸サークル-」を開催し、ライブラリにも関連特設コーナーを設置しました。



(学芸主査 八幡巴絵、学芸員 矢崎春菜、エデュケーター 永石理恵)

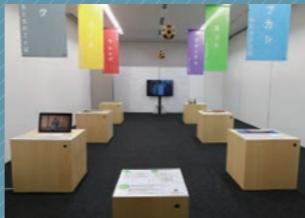
## News 1

### 第1回交流室展示 「ケレ ヤン、ヌカラ ヤン、ヌ ャン さわる、みる、きく、 国立アイヌ民族博物館」 を開催しました

【会期】  
[第1期] 2021年8月21日(土)～10月3日(日)  
[第2期] 2022年1月29日(土)～2月27日(日)  
【会場】  
交流室B

#### 【展示の紹介】

本展示は、博物館の資料をみるだけではなく、資料にさわること、音をきくことを通して、当館の展示の理解を深めながら、アイヌ文化を体験する機会として開催しました。



会場は、当館の基本展示の6つのテーマにあわせた構成をとり、展示資料は、直接手に取ってさわれるよう展示しました。例えば、チエケレ(サケ皮のくつ)やマキリ(小刀)、イタ(盆)といった民具資料は、さわることで資料の素材を感じ、手に取ってじっくり観察することで資料に施された細かな彫刻の技術がわかります。このほか、本展示に向けてウポボイの職員が製作したヤラニマ(樹皮の器)なども展示しました。また、ウポボイのさまざまな音を収録した映像作品「ウポボイに音でさわる」や、道内の鶴川地域で伝承されるカムイユカラ(カムイの物語)とウポボイ(座り歌)を収録した映像作品[作品はいずれも映像・音源制作 春日聰氏]を会場内で常時再生し、映像と音からもウポボイやアイヌ文化を感じられるような展示を行いました。

本展示では、すべての解説に点字を付け、音声案内も設置し、多言語表記するなど、多くの来場者にひらかれた展示となるよう取り組みました。

#### 【関連イベントの開催】

本展示の会期中には、伝統的コタンとの連携イベントを開催しました。連携イベントは、伝統的コタンのポンチセを会場に、囲炉裏のにおいを感じながら、ムックリ(口琴)やトンコリ(弦楽器)の音を出してみたり、民具資料をさわってみたり、セタエント(ナギナタコウジュ)という植物のお茶を味わうなど、五感でアイヌ文化を感じられる内容で実施しました。



展示やイベントを通して、いろいろな角度からウポボイや当館の展示、そしてアイヌ文化を体感いただけたのではないかでしょうか。

(エデュケーター 今野彩)

# ウポポイへの入場は事前予約制です。

ウポポイへお越しの際は  
ウポポイ入場券  
+  
博物館入館整理券※  
の両方が必要です。

※博物館の展示室観覧を希望されない方は、博物館入館整理券予約は不要です。

博物館に入館する場合は、必ず事前予約をお願いいたします。

当日、予約なしで博物館への入館はできませんのでご注意ください。

国立アイヌ民族博物館では、館内にいる人数を制限し、1時間刻みの予約制としています。



STEP① ご来場日を決める

STEP② ウポポイウェブサイトのご利用案内より  
ウポポイ入場予約・チケット購入にアクセス

STEP③ オンラインで  
ウポポイ1日券を  
日付を指定して購入

STEP④ 博物館入館整理券を  
日時を予約して入手

区分	料金 (税込)	来場時に必要な券
個人	大人 1,200円 高校生 600円	ウポポイ 1日券 (オンライン 購入時に 日付指定) ※1
年間 パスポート	大人 2,000円 高校生 1,000円	博物館 入館整理券 (ウェブサイト による日時予 約が必要) ※3
団体 (20名以上) ※2	大人 960円 高校生 480円	ウポポイ 入場日 予約券 ※3
中学生 以下 障がい者 およびその 介護者 1名	無料	

※1 ウポポイ1日券はコンビニでもお買い求めいただけます。

※2 ご来場になる人数分のウポポイ入場日予約券と博物館入館整理券を入手のうえ、現地窓口で精算ください。

※3 コンビニでの発行はできません。

ウポポイ入場券購入  
および  
博物館入館整理券  
の発行はこちら



## ②休館日

月曜日および年末年始(12月29日～1月3日)

※祝日または休日の場合は翌日以降の平日

# ウポポイ こんな とこ 5

## 『テエタ カネ アン コタン 伝統的コタン』

チセ(家屋)群が再現され、アイヌの伝統的な生活空間を体感できるエリアです。チセの中で囲炉裏を囲みながら、日々のくらしの中で語られてきた物語を紹介する口承文芸実演「ネウサラアン ロ」。コタンでのくらし解説を中心には伝承されてきた歌や踊りを体感できる文化解説プログラム「ウパシクマ」。植物と暮らし紹介「チクニ オルシベ」では、樹木を観察しながら、衣食住、儀礼などにかかわる植物の利用法を学ぶことができます。そのほかにもアイヌ語学習プログラムや、狩猟で用いた弓矢の体験など、いろいろなプログラムがあります。さらに、夏には丸木舟の操船実演、冬にはサッヂェプ(鮭の寒干し)づくりなど、季節によってさまざまなアイヌのくらしを再現しています。

実際の生活空間で話を聞いたり、体験を通して、アイヌのくらしや考え方などアイヌ文化に触れてみませんか。

※各プログラムのタイムテーブルはウェブサイトでご確認ください。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部内容を変更して実施している場合があります。



文化解説プログラム「ウパシクマ」



丸木舟実演・解説

## ④ 国立アイヌ民族博物館からのお知らせ

### ◎ 国立アイヌ民族博物館のバーチャル博物館開館！

当館基本展示室をご自宅でも楽しめるようになりました！博物館の中にいるように、自由に巡りながら、音声解説とともに展示を鑑賞することができます。世界のどこにいてもアイヌの歴史・文化について学ぶことができます。きっと、新しい発見がありますよ。

公開リンク:nam-vm.jp



### イベント情報 ◎ArCSII 沿岸環境課題、北海道立北方民族博物館、国立アイヌ民族博物館 コラボイベント 「動物の毛皮に触ってみよう－アイヌ民族と北方民族の毛皮利用を知る・触る」

日 時：2022年5月28日(土)、29日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては変更する場合があります。

会 場：1階 交流室

寒いときに身体を守ってくれるもの、その一つが毛皮です。本イベントでは、北海道、シベリア、グリーンランドなど各地の毛皮利用と、背景にある民族交流の歴史について紹介します。

※詳しくは、当館ウェブサイトをご覧ください。



### ■お問い合わせ

公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)

住 所：〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号

電 話：0144-82-3914 FAX: 0144-82-3685

メー ル：info@ainu-upopoy.jp

ウポポイに関する詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 検索



<https://ainu-upopoy.jp/>

<https://nam.go.jp/>

※アヌアヌは、アイヌ語で「もしもし」という意味です

国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」第8号

ISSN 2435-8207

編集・発行：国立アイヌ民族博物館

2022年5月発行

印刷：凸版印刷株式会社